

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	873700413		
法人名	有限会社 熊野屋商事		
事業所名	高齢者グループホーム ほたるの里		
所在地	行方市山田104-21 (電話) 0291-34-6662		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年5月14日	評価確定日	平成20年9月26日

## 【情報提供票より】(平成20年3月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	13 人
職員数	15 人	常勤	10人, 非常勤 5人, 常勤換算 12.05人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,600 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年5月14日現在)

利用者人数	12名	男性	1名	女性	11名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	6名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 83.75 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	銚田病院 加部東歯科医院 北浦診療所
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者及び職員はホームの理念に基づき、利用者一人ひとりのより良い生活を確保するため、細やかな気づきを適切に受け止め利用者の思いにそえるサービスを実践している。  
近隣に協力してくれる医療機関があり、定期的な往診や健康診断が行われている。  
利用者の緊急時や終末期等の状態に応じて対応ができるよう、医師の指示や家族の同意を得ており、利用者も家族も安心して生活できる環境にある。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、浴室のプライバシーに配慮した工夫が必要と提案されたため、浴室の引き戸を開けたところにカーテンを設置し改善を図った。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を職員に周知するとともに、改善点は速やかに対応している。管理者と職員がともに外部評価の意義を理解して自己評価に取り組み、新たな課題は毎月のリーダー会議やミーティングで話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は現在まで4回開催し、家族の思いや意向を積極的に取り入れるため、委員として家族代表にも会議に出席してもらっている。 地域の要望で施設の紹介や見学会を開催し、理解と協力が得られるよう取り組んでいる。 今後、行事を通してボランティアとの触れ合いを紹介する計画がある。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームの相談窓口を担当者を配置するとともに、行政などの外部機関を契約書に明示し説明している。 毎月のホーム便りや介護計画書の了承時、面会時などに意見や思いを聞き、運営に反映している。 平成20年度に家族の会を発足する予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 市の広報誌の情報から地域の行事に参加したり、近隣の小学校の運動会に招待を受け交流するほか、ホームで地域の老人会の方々とクロッケー大会などを開催している。 また、毎月第3日曜日に、「もの忘れ教室」を開催したり、地域のネットワークづくりに取り組み、地域に根ざしていくことに努めている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた自然豊かな地域と家庭的な雰囲気のなか、その人の思いに寄りそい安心して生活ができる理念をつくり、玄関に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング時、全員で理念を唱和している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市の広報誌の情報から地域行事に参加したり、近隣の小学校の運動会に招待を受け交流するほか、ホームで地域の老人会の方々とクロック大会などを開催している。 また、毎月第3日曜日に「もの忘れ教室」を開催し、地域に根ざしていくことに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員に周知するとともに、改善点は速やかに対応している。 管理者と職員がともに外部評価の意義を理解して自己評価に取り組み、新たな課題は毎月のリーダー会議やミーティングで話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在まで4回開催している。家族の思いや意向を積極的に取り入れるため、委員として家族代表も出席している。地域の要望で施設の紹介や施設見学会を開催し、理解と協力が得られるよう取り組んでいる。今後、行事を通してボランティアとの触れ合いを照会する計画がある。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度から管理者が市介護保険策定委員として参加するとともに、事業所間の交流や市の各種事業への協力により連携体制が強化されている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「ほたる便り」や介護計画書作成及び変更等の連絡時に、利用者の生活の様子を報告している。 金銭管理出納や週1回の往診・健康診断の結果を定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの相談窓口を担当者を配置するとともに、行政などの外部機関を契約書に明示し説明している。 毎月のホーム便り送付時や介護計画書の了承時、面会時などに意見や思いを聞き運営に反映している。 平成20年度に家族の会を発足する予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者は2ユニット内を日常的に往き来し、テラスで合同のお茶会やラジオ体操などを行い、利用者間の馴染みの関係を大切にしている。 法人内の異動はなく、管理者は職員とともに利用者を家族のように大切にできるよう配慮した職場づくりをしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は段階的に参加できるよう計画し、研修後は伝達講習を実施している。 また、准看護師の育成にも力を入れ、緊急時対応が速やかに行えるよう、緊急時対策、感染・事故防止、口腔ケア等の勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者や法人内の同施設、介護老人保健施設と情報交換や交流会を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	生活歴を十分アセスメントし、具体的な介護計画を説明したうえで、利用者や家族の納得のもと支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や今できることを捉えて可能な役割をともに行い、日々の生活のなかでお互いが支え合う関係づくりに配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から思いや意向を確認し、自己決定を優先している。 意思表示の困難な利用者には、日々の生活のなかや行事を通して、利用者のわずかな表情の変化や言葉・仕草から把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は担当制であるが、個々の職員の気づきや意見を大切に、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に1度介護計画の評価を行い、利用者の状態に応じた計画内容について家族の承諾や意向を確認するとともに、修正や変更した内容を電話や郵送にて報告し、現状に即した介護計画の見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所介護施設の休業日は、利用者に解放しホットパック（温熱機）やメドマー（足マッサージ機）などを利用している。 空床を利用した短期生活介護も可能である。 また、家族がホームに宿泊できる体制を整えている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は家族の同行も得られるよう協力を求めている。 近隣には事業者の協力医療機関があり、週1回定期的な往診や健康診断が行われ、緊急時の支援体制も整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りマニュアルを作成し、急変時に対応できるよう准看護師が中心となり定期的に勉強会を行っている。 夜間は緊急時の対応として1名を待機勤務者としている。 看取り介護計画書を作成し、医師の指示を仰ぐとともに家族の意見を尊重し、同意を得たうえで様々な選択肢を提供できるよう取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に安心感と自信がもてるよう優しく、ゆっくりとした態度で接し、言葉かけや対応に心掛けている。 個人情報重要事項説明書に明示し、契約時に説明している。 家族の面会は居室等を利用して話をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの介護度に応じたペースで生活できるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と食卓を囲み、片付け等は利用者のできる範囲でともに行っている。 また、おやつ作りなどを取り入れ、楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の身体機能に応じ、入浴は通所介護施設の浴室を利用するなど、安心・安全に配慮している。 一人ひとりの希望時間に入浴支援できるよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の身体機能や生活歴、趣味・特技に応じた気晴らし支援を1ヶ月ごとに計画し、実践している。 ホーム内はその楽しみごとの写真や作品が飾られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の身体機能に応じた1ヶ月の予定にもとづき、家族との触れ合いを大切にしながら、参加できる範囲でドライブなど郊外へ出かける支援をしている。 近隣の行事や散歩を行うなど、地域の人々との交流の機会も大切にしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは2階部分に位置し、1階は通所介護施設のため日中は施錠していないが、夜間は防犯上施錠している。 利用者の行動パターンを把握できるよう努め、見守り支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を計画し、1回目は夜間災害を想定した避難訓練を実施している。 災害時の一次避難場所として、近隣の飲食店に提供を依頼している。 また、災害時用のレトルト食品も備蓄している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	胃瘦・経管栄養・嚥下障害のある利用者を含めた食事形態や時間に配慮するとともに、水分摂取量や排泄状況を把握し、月1回の体重測定を実施するなど、体調管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光や照明、臭気にも細やかな配慮をし、温度・湿度計を設置している。 ベランダから北浦の景観を一望し、お茶会を楽しんだり、軽体操ができるスペースを設け、季節の花をプランターに植えている。 リビングに畳の間を設置するなど、くつろげるスペースを設けている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の思い出の家具や物品を配置し、写真などを飾っている。 家族が宿泊できる居室を2部屋確保し、安心して生活できるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。